

史跡 入江・高砂貝塚（入江貝塚）

（読み方）しせき いりえ・たかさごかいづか（いりえかいづか）

（英 語）Irie Site

【所在地】

北海道洞爺湖町入江

【年代】

紀元前 1,800 年頃（約 3,800 年前）

【キャッチコピー】

共同の祭祀場や墓地を支えた集落跡

【説明文：90字】

内浦湾を望む段丘上にある集落跡。竪穴建物による居住域、墓域、貝塚で構成される。墓からは筋萎縮症に罹患した成人人骨も確認され、周囲の手厚い介護を受けながら生きながらえたことを伝える。

【説明文：137字】

内浦湾を望む段丘上にある貝塚を伴う集落跡。貝塚からは貝殻・魚骨・海獣骨のほか、動物の骨や角を加工した釣針や銚などが出土し、漁労を中心とした生業を示す。墓域からは、幼い頃に筋萎縮症に罹患した成人の人骨が見つかり、集落内で手厚い介護を受けながら生きながらえたことを伝える。

【説明文：260字】

内浦湾を望む段丘上にある貝塚を伴う集落跡。竪穴建物による居住域、墓域、貝塚で構成される。貝塚からは、アサリやイガイなどの貝類、ニシン、ヒラメ、マグロなどの魚骨、イルカなどの海獣骨、動物の骨や角を加工した釣針や銚などの骨角器が出土し、漁労や狩猟が活発に行われていたことを示す。墓域からは、ポリオ（小児麻痺）や筋ジストロフィーが原因と考えられる筋萎縮症に罹患したとみられる成人人骨が見つかり、集落内で手厚い介護を受けながら生きながらえたことを伝える。このほか、イノシシの牙を用いた装身具なども出土し、高い精神性を示す。